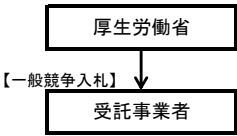


平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)												
事業名		柔道整復療養費等経営実態調査に要する経費			担当部局庁		保険局		作成責任者			
事業開始年度		平成27年度	事業終了 (予定) 年度	平成27年度	担当課室		医療課保険医療企画調査室		込山 愛郎			
会計区分		一般会計			政策・施策名		IV-2-1 全国民に必要な医療を保障できるよう、高齢者医療制度改革を含め、医療保険制度を安定的・効率的に運営するために取り組む					
根拠法令 (具体的な条項も記載)		—			関係する計画、通知等		「柔道整復師の施術に係る療養費について」 (平成22年5月24日保発0524第2号保険局長通知) 等					
主要政策・施策		医療分野の研究開発関連			主要経費		その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		柔道整復師等の施術所の施術所経営の実態を明らかにし、算定基準の見直しなどの適正化の調査検討を行うための基礎資料とするとともに、柔道整復療養費等の施術の単価の改定の基礎資料とする。										
事業概要 (5行程度以内。別添可)		柔道整復師等の施術所の施術所経営の実態を明らかにし、算定基準の見直しなどの適正化の調査検討を行うための基礎資料とするとともに、柔道整復療養費等の施術の単価の改定の基礎資料とするための経費。										
実施方法		委託・請負										
予算額・執行額 (単位:百万円)				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求				
		予算 の 状 況	当初予算	—	—	—	36	—				
			補正予算	—	—	—	—					
			前年度から繰越し	—	—	—	—	—				
			翌年度へ繰越し	—	—	—	—					
			予備費等	—	—	—	—					
		計	0	0	0	36	0					
		執行額		—		—		—				
執行率 (%)		—		—		—						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		定量的な成果目標		成果指標			単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 — 年度	
							成果実績	—	—	—	—	
							目標値	—	—	—	—	
							達成度	%	—	—	—	
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定量的な成果目標		定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と24～26年度の達成状況・実績					
			柔道整復師等の施術所の施術所経営の実態を明らかにし、算定基準の見直しなどの適正化の調査検討を行うための基礎資料とするとともに、柔道整復療養費等の施術に係る単価の改定の基礎資料とするための経費であることから、定量的な指標を示すことはできない。				柔道整復師等の施術所の施術所経営の実態を明らかにし、算定基準の見直しなどの適正化の調査検討を行うための基礎資料とするとともに、柔道整復療養費等の施術単価の改定のための基礎資料とする。					
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績		代替目標		代替指標			単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 — 年度
			柔道整復師等の療養費の算定基準の見直しや、柔道整復療養費等の施術の単価改定を適正に行う。		得られたデータを有効に活用することとする。			実績	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標					単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
		柔道整復師等の療養費の算定基準の見直しなどの適正化の調査検討を行うとともに、柔道整復療養費等の施術単価の改定のため、得られたデータを有効に活用することとする。					活動実績	—	—	—	—	
							当初見込み	—	—	—	—	
単位当たりコスト		算出根拠					単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
							単位当たりコスト	—	—	—	—	
							計算式	/	—	—	—	—
平成27・28年度予算内訳 (単位:百万円)	費目		27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由							
	経営実態調査		36	0	27年度限りの事業							
計		36	0									

事業所管部局による点検・改善						
項 目			評 価	評価に関する説明		
国費投入の 必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	柔道整復施術療養費の算定基準の見直しや審査委員会の機能強化などの適正化の調査検討が目的であることから、広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	柔道整復施術療養費の算定基準の見直しや審査委員会の機能強化などの適正化の調査検討が目的であることから、国が実施すべき事業である。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	柔道整復施術療養費の施術単価の改定の基礎資料等として位置づけられており、優先度の高い事業である。		
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	—		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	—		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	—		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	—		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		-	—		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-	—		
事業の 有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-	—		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		-	—		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	—		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-	—		
関連 事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	—		
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		-	—		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・ 改善 結果	点検結果	—				
	改善の 方向性	—				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
終了 予定	引き続き適正に実施し、予定通り平成27年度をもって終了すること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
予定 通り 終了	当該事業は終了するが、得られた知見は他の事業にも活用する。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	—	平成23年度	—	平成24年度	—	
平成25年度	—	平成26年度	—			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

C

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

D

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					